



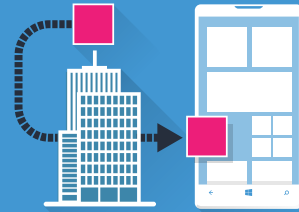
1 1つのMDM APIで すべてのWindows 10 デバイスを制御

IT部門は、統一されたMDM APIにより、タブレット、デスクトップ、電話、組み込みデバイスを問わず、1つのEMMコンソールでデバイス管理とセキュリティを集中的に行うことができます。

2 異なるデバイスでも 一貫したユーザー体験



Windows 10は、すべてのデバイスのユーザー体験を統一します。電話でも、タブレットやPCでも、登録から構成まで多くのプロセスが同じとなります。



3 Win32アプリの EMM配布

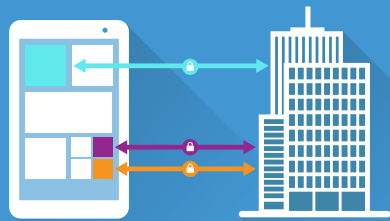
Windows 10では、Win32アプリケーションをパッケージ化し、System Center経由で配布する必要がありません。MDM APIを利用してEMMコンソール経由で直接管理し、配布できるためです。

10

統一された Windowsストア

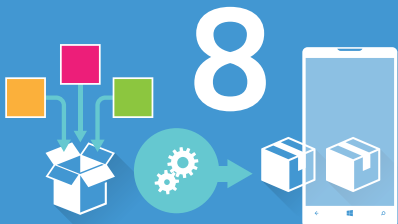


社内開発アプリ、サードパーティアプリ、Win32アプリなど、すべてのアプリを1つのストアで入手できます。新しいEMM APIにより、統一されたWindowsストアのアプリケーションは、あらゆるWindows 10デバイスのユーザーにサイレントにプロビジョニングできます。



9 Windows 10の Per-App VPN

Windows 10では、Per-App VPNが使用するアプリケーションベースのフィルターにより、Outlook、Excel、PowerPointなど許可されたアプリケーションからのトラフィックのみ、セキュアな暗号化された接続を通じて保護リソースにアクセスできます。



8 バルクプロビジョニング

Windows 10では、IT部門がデバイスを前もって構成し、登録できるため、各ユーザーの登録作業が要らず、大規模なデバイス導入を効率的に行うことができます。

7 バルクライセンスの 購入と配信



IT部門は、複数のアプリケーションやOSライセンスを購入し、EMMを通じて配信できます。各デバイスは新しいビジネスストアポータルからオンラインでこれらをインストールするか、パブリックネットワークに接続せず、プライベートネットワーク経由でオフラインでインストールします。



6 Office 365に対応する Azure Active Directory のアクセス制御

企業は、Windows 10により、コンプライアンス条件に違反したデバイスによる自社クラウドリソースへのアクセスをブロックできます。EMMは、デバイス状態を監視し、Azure Active Directoryに報告する上で中心的な役割を果たします。Azure Active Directoryは、EMMプロバイダーから得た情報に基づいてアカウントアクセスを許可または拒否します。



4 Windows更新の 綿密な制御

Windows 10では、OSの更新に対するIT管理者の制御力が強くなります。これには、更新があるかどうかの確認、ネットワーク接続に基づく更新のインストール、EMMコンソールへの更新状態の報告に関する綿密な制御が含まれます。



5 高度な 企業データ保護

企業データ保護 (EDP) 機能により、デバイスは、SharePointなどのビジネスアプリケーションに由来するデータを自動的に識別し、暗号化します。Facebookなど個人的なアプリのデータは対象となりません。暗号化されたビジネスデータは分離され、EMMを通じた情報漏洩防止 (DLP) 制御によって管理されます。

Windows 10 についてモバイルIT 管理者が知っておくべき 情報トップ10

